

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	グローバル・アカデミー		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 6日		～ R7年 1月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数) 18人
○従業者評価実施期間	R7年 1月 6日		～ R7年 1月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフは専門的な知識と経験を活かし、子ども一人ひとりに合わせた支援を提供しています。個別支援を中心に進めることで、子どもたちの成長をサポートし、家族との連携も密に取ることで、保護者の信頼を得ています。また、スタッフ間での情報共有を徹底し、支援の質の向上に努めています。	支援計画は子ども一人ひとりの成長に合わせて定期的に見直し、最適な支援が行われるようにしています。計画作成時には保護者とスタッフが意見を交わし、共通の目標を設定して取り組むことで、目標達成に向けた支援が一貫して行われます。目標に向けた進捗を確認しながら、適宜計画を調整しています。	親同士が意見交換できる場を定期的に設け、育児や子どもの支援に関する情報を共有します。親子参加型イベントを開催し、家庭と施設の連携を強化します。
2	各子どものニーズに合わせて支援内容を柔軟に調整しており、日々の観察や評価を基に、個別支援計画を見直しています。これにより、子どもの成長に合わせた支援を継続的に提供し、発達を促進しています。保護者と共有した目標を基に、一緒に支援を進めています。	子どもたちの興味を引き出し、楽しみながら学べる活動を積極的に取り入れています。制作活動、運動、社会性を学べるグループ活動など、発達段階に応じた活動を提供し、それぞれの子どもに合った方法で進めています。多様な活動を通じて、子どもたちの好奇心や自信を引き出しています。	活動ごとに適した空間を提供し、屋外スペースの活用を増やします。活動内容に応じた多目的エリアを整備し、子どもの発達を支援する環境を作ります。
3	子どもたちが主体的に活動できるよう、制作や運動、グループ活動などを通じて、自己表現の場を提供しています。活動を楽しみながら、子どもたちの社会性やコミュニケーション能力を養う工夫を行っており、子どもたちの興味を引き出すプログラムが多く、成長を支えています。	必要に応じて、心理士や作業療法士と連携し、個別支援における専門的なアドバイスを受ける体制を整えています。支援計画には、これらの専門家の意見を反映させ、子どもにとって最適な支援を行うよう努めています。スタッフ間での情報共有と連携を強化することで、より高い支援の質を実現しています。	専門的な研修や外部講師を招いて、スタッフの知識や技術を向上させます。個別の支援に対応するため、最新の情報を取り入れた支援を行います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在の施設では、活動スペースに制約があり、特に大規模なグループ活動や運動活動を行う際に不便さを感じることがあります。十分な広さや設備が整っていないことで、活動の幅に限りがあり、子どもたちにとって十分な環境を提供できていない場合があります。改善が求められています。	現在のスタッフ数では、一人ひとりに十分な時間をかけた支援が難しく、スタッフの負担が大きいことが課題です。業務の多さや支援内容の質を確保するためには、スタッフの増員や業務分担の見直しが必要です。スタッフの精神的・身体的負担を軽減することが急務です。	スタッフの増員を検討し、個別支援にかける時間を増やすことで支援の質を向上させます。また、スタッフの業務負担を軽減するために、業務の分担や効率化を図り、スタッフがつまみやすい環境を整えます。これにより、より充実した支援が提供できます。
2	スタッフ間で支援のアプローチにばらつきがあることがあり、個別支援の一貫性が欠けることがあります。特に支援計画の実行段階でスタッフ間で認識の違いが生じ、支援方法や進行状況にばらつきが出ることがあります。これを改善するために、支援内容の統一とスタッフ間での共有を強化する必要があります。	施設の老朽化が進んでおり、設備のメンテナンスや更新が必要です。特に、子どもたちが使用する道具や遊具など、劣化が目立つ部分もあります。施設の改修や設備の更新が進められない場合、支援の質にも影響が出る可能性があります。施設環境の改善は課題の一つです。	施設のスペースや設備を見直し、子どもたちが自由に活動できる広さや、安全に遊べる遊具を整備します。また、施設内の環境を改善し、子どもたちが過ごしやすい空間を作るための工夫を行います。施設の改善に向けて、予算や計画を立て、実行に移すことが必要です。
3	保護者とのフィードバックをもっと活発に行う必要があります。現在は面談や評価を行っているものの、日常的なコミュニケーションが不足しており、保護者の要望や懸念をもっと早い段階で把握できていないことがあります。保護者の意見をもっと積極的に取り入れる仕組みが必要です。	保護者のニーズが多様化しており、それぞれに合わせたサポートが難しい状況です。特に、支援内容に対する期待や要求が異なるため、全員に満足してもらえるような支援が提供できていない場合があります。保護者個々のニーズをさらに明確にし、それに応じた柔軟な支援を提供する必要があります。	保護者とのコミュニケーションをより円滑にし、定期的なフィードバックを受け取る体制を整えます。また、保護者のニーズに応じたサポートを行うために、個別の相談窓口や相談会を設けるなど、柔軟に対応できる体制を整えます。保護者との信頼関係を深めることが重要です。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 グローバル・アカデミー

公表日 R7年 1月 31日

利用児童数

18

回収数

18

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	2		1	面談時に見せていただきたいです。今の場所になって見学したことがないのでわかりません。ちょうど良いそうです	保護者の希望に応じて、面談時に活動スペースや施設内を見学できる機会を提供する
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17	1			もう少し多くてもいいなと思う。たくさん支援していただいているのでとてもありがたいですが、先生方が大変なのではと心配になります	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	1		3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	16			2		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18				原因を考えてくださり、解決できるよう工夫やアドバイスを頂けるので、とても心強いです。特性や発達に合わせた支援をしていただいています。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15			3		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18				室内、外ともに様々な楽しい活動を取り入れられています	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	14	3	1		小学校のお兄ちゃんおねえちゃんとの交流あります	
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17	1			分かりやすく説明していただいています	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15		2	1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	18					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18				定期的に面談をしていただいています	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18				日々感じています	
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	3	3	4	親も見学できたりする機会もあり、その他の保護者さんと話したりできました。いろいろ子供たちのためにイベント企画などしていただいているので、家族のことにまで手を回すのは難しいかと思います。	現在行っている保護者見学の際に、自然に交流ができる時間を確保する。家族全体への支援については、施設のリソースを考慮しつつ、現実的に実施可能な範囲で工夫する。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16				2		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17		1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16		2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18			定期的に避難訓練を行っています	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18			体調不良の際すぐに連絡をいただき対応いただきました	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18			先生方をとても信頼しているように感じます。大好きだそうです。先生やお友達の名前がよく出てきます	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18			とても楽しみに通えています。お休みの日テンション下がらない楽しみにしています。グローバルがお休みだと悲しそうにするほどです。いつも、幼稚園より楽しみにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	18			非常に感謝しております。感謝しかありません	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		グローバル・アカデミー		公表日		R7年 1月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	学習部屋と遊ぶ部屋を分けている。	自由選択時の部屋は少し広いが学習の部屋は少し狭いように思う	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		職員配置は多く、満たされているため次年度は業務中の意識を高めて全体のスキルアップに努める		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	床マットの色分別や玄関出入り口に職員は目視を必須としている。バリアフリーではないが玄関のところを一段上げたりしている。	対象者がいないのでバリアフリーではない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		座椅子の活動時にいす、正座と場面対応を実施している		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	日々子供たちの気になった点はメモ記録に残すようにしている。必要に応じて話し合いが行われている	職員個人の職務内容を明確に提示していかねばと反省している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		リズム、動画配信にて、保護者の悩み、要望など把握している。保護者様の意見をみんなで共有し改善できるところは行っている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員に多く療育内容のプレゼンを依頼し、導入することで個人のやる気の向上に努めている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2		今年度より、所属園に訪問事業部の評価依頼を実施	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		病院受診に同行し、医師による適切な対応を学び周知している		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		その日の療育の中での様子を共有する		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		次年度は支援計画の作成を周知していく予定		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		個人の気になる行動チェックシートを作成している		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		KIDS発達スケール検査を半年から一年に一度実施している		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		モニタリングはみんなで取り組んでいる		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		新しい活動を取り入れるようにしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別課題作成は担当制としており、職員のスキルアップも課題としている。一人一人に合わせた活動支援ができています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		午前中にみんなで話している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1		次の日などに振り返り話をしている。その日の送迎が終わると大金になるため次の日になることが多い
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		受診同行、意見書提出、移行支援引継ぎシート作成を実施	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		毎月支援目標を所属園に提出計画書（半年に一度）を提出	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	就学先への情報提供は行っている	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	1	行橋市に2か所センターがある。次年度は情報交換や交流の機会を実施していきたい	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	2		次年度は、他事業所の利用者さんとの交流体験を実施していきたい。園との交流も増やしていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時に話したり動画にて配信している。送迎時など保護者との会話を大切にしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	実施できていないため次年度はペアトレの研修に参加したい。	家族からの相談など対応などはできているが研修などはできていないのではないかとと思う	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明している	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		契約前、事前に、ヒヤリングシートの提出を依頼し、計画内容に導入している	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			今年希望者のみの面談を実施、次年度は、全員面談を実施予定。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7			放デイの子供たちとの交流実施。多くは集まることはできないが年1, 2回の交流は行っている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	2		療育別、イベントなどでは、動画にて配信を行っている。療育の動画配信を行っている。	HPやSNSは活用していない。SNSなどではないが、動画配信を行っている
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7				
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4			近隣の住民に療育室の見学をしていただいた、次年度はパンフレットを配布予定
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			毎月内容を変えて実施している。動画にて保護者に配信している	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			毎月行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			てんかん発作の症状時対応について小倉医療センターの医師に指導を受ける	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7				
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7				
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			ヒヤリハットがあった場合、全職員に話し、再発防止に努めている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7				
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7			契約時に保護者説明を必須として実施している		